

ニナルガ此、問同人等ハ秘密裡ニ會社側ト會見交渉ヲ進メツ、アリタル
モノニテ其ノ結果當事間ニ於テ殆ンド妥協矣、ニ致ク見別親ノ如キ辭
決果ク得ルニ至ルニ至レリ

(2) 斯ラテ對策本部ニ在リテハ直クニ此ノ旨大政ノ筆城祖ニ通知スルト共ニ
上京ヲ促シタル結果坂本修也下四十三名ハ翌十四日午後八時五十分東
京駅着列車ニテ入京、筆城祖田道場筆城祖三十五名ノ出迎ハク受ケ同
ト共ニ對策本部ノ京寓ホテルニ投宿セリ

(3) 次デ同夜午後九時四十五分ヨリ京寓ホテルニ階大廣間ニ全員(一〇〇ニ名)
出席茶話會ヲ開催、東京租ハ後井藤四郎、大政祖ハ關山重次
夫々代表レ運動狀況ヲ漫談的ニ報告シタル後各人自己紹介
ヲナシ午後十一時三十分閉會ス

(4) 尚之レヨリ先對策本部ニ在リテハ三月十二日別添(内相閣下其ノ
他ノミ)「日本郵船ト暴ク」ト題スル「パンフレット」一千部ヲ作
製日本主友團體其ノ他ニ頒布セリ

四、交渉經過

(1) 本問題ニ關シテハ會社側及明朗會側共ニ當初ヨリ自主的ニ解決シタ
キ希望ヲ有シ及ニ相手方、會見提議ヲ待クツ、アリタル模範ナリシカ先ツ
三月七日會社側ヨリ副社長渡辺水太郎ハ電話ク次テ明朗會側代表日
比和一ニ會見ヲ申シタルニ同人ハ之ノ場所ニ關シ會社側ハ希望セル郵船本
社及工業俱樂部ハ何レモ不適當ナリトシテ拒絶セル為メ結局九ノ内會館ニ遷
芝岡日午後四時三十分ヨリ同十一時頃ニ至ル迄、會社側副社長、明朗會側
日比和一、大森元春、矢部匡城生ノ當事者双方會見當夜八時ニ明朗
會側ヨリ抽象的ニ社内ノ革新問題其ノ他ニ關シ傳ヒ意見ヲ開陳、渡辺副社
長ニ對シテ明朗會激起経緯ニ關スル談話ヲ深ク之ガ善處ヲ要理シタル程度
ニテ散會

(2) 次テ三月十一日午後十一時ヨリ翌十二日午前二時ニ至ル間赤坂待合(ハコ)ニ
於テ會社側副社長渡辺水太郎、専務藤木幹雄、明朗會側ハ前記日比
大森、矢部三名ノ當事者、外幹渡邊トシテ吉田益三ニ加ハリ種々折衝ノ